

BACELL® Rangemaster Series

Areapassion, Prestar, Magna and beyond...

Rangemaster
B-Plus



1 1994年、エリアパッションをリリースすることで最も早く管理釣場へのソリューションを提案したバッセルは、1998年、より高いプレッシャー下のソリューションとしてプレスター2.1gを、2003年には2.1をよりテンショナルに、よりステイブルに進化させたエヴォリューションをリリース、ソリッドカーボンロッドプレスタースピントともに管理釣場におけるシステムソリューションを完結させました。特にスキルを必要とせず、誰にでもアタリが感知でき、容易にノセられるAt Easeな釣りを実現したエヴォリューション。必要とするスキルがあれば、自在なアクションをつくりだせるエリアパッション、プレスター2.1。この両者は対極にありながらも釣りの楽しさという点では共通のDNAを持っています。そしてそれはバッセルのオリジナルシリーズから連綿と続いているDNAなのです。



管 理釣場が隆盛した理由は、一つには、高度な熟練を必要としない手軽な釣りを提供したことであり、また、その名称通り、魚を放流し、釣れて当たり前の環境をつくったことにありました。しかしながら、全ての釣り人口に対して余裕のある釣場を提供することは不可能であり、時間帯によっては一人当たりの魚数が著しく少なくなることとなります。釣れて当たり前の状況が、ただ黙々と魚を釣るという行為を助長し、結果、魚に対する多大なストレスの増大がタフコンディションを醸成してゆくわけです。そして2004年、そんな管理釣場の状況に対して一石を投じたのがレインジマスターマグナです。それは、ただ漫然と“数を釣るだけのスタイル”から脱却する好機を見いだすことであり、釣り本来の醍醐味であるはずの「方法論」への回帰でした。ある程度のスキルと経験則を持ち、現状を憂うアングラマーへ向けたバッセルのメッセージは、大きな賛同とマグナへの正しい評価をいただきました。



釣 りとは魚を釣るだけでなく、釣りという行為を通じて垣間見る自然とのインターフェイスであり、その媒体＝メディアであるとバッセルは考えます。日本の釣り環境は海外のそれと比べて決して良いものではありません。しかし、一步，“管理された釣場”から飛び出せば感慨を享受できる“自然”がまだそこにあるのです。

1 1985年、芦ノ湖での経験にインスパイアされ誕生したオリジナルシリーズから続く系譜は、2005年の今、再び芦ノ湖への回帰を目指します。マグナで提唱されたコンセプト“ストラテジックスプーン”はその版図を湖へと拡大し、進化したB-Plusとなって自然フィールドへの軌道を描き出すのです。B-Plusとともにあなたが“その一步”を踏み出さんことを。